



公園の入口を花壇にしたいけど…
この場所は、なぜか植物を植えても育たないんだよなあ。
手入れがしやすく、一年中楽しめる花壇にしたいな。



実施前

水が溜まりやすい場所での 持続可能な花壇づくり

- 日時：令和3年12月4日 10-12時
- 場所：太尾堤緑道（港北区）
- 講師：土木事務所職員
- 参加者：
公園愛護会関係者 13名
市職員



完成



Step1 計画

ポイント

注意

観察し特徴を知る

この場所は掘るとすぐに水が出てしまうため、これまでも植物が育ちづらい場所となっています。土の状況のほかに、日当たり状況や水やり施設の有無等、現地で確認しておく必要があります。

対策を考える

- 排水施設を設置する
→ 費用、手間の面からも難しい。では、この環境に合った花壇としよう！
- 🌱 簡易な土壌改良の実施
- 🌱 枠を設置し土の厚さを確保
- 🌱 水を好む植物を使用

場所に合った植栽を選ぶ

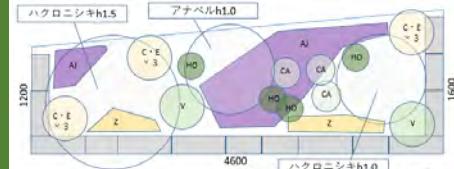
水を好む植物、手入れが容易
【今回選定したもの】ハクロニシキ※1、アナベル、カラー、ミツバハマゴウ、アジュガ、ゼフィランサス※2、ギボウシ、スイセン



※1:イコリヤギの園芸種 ※2:別名マダレ等

配置をイメージ

高さや自然な感じを出すため、事前に植物の配置をイメージします。



Step2 基盤づくり

土壌改良



除草、耕転後、砂をすきこみ排水対策を実施



Step3 植付

花壇枠の設置



表面の土を厚くすることで滞水を防ぎ、高くなった分はコンクリート擬木枠※を設置しました。

植付前の状況



植付前の準備完了

講習会で植付実施
講師から配植の注意点や植物の説明を受けながら植付作業



ポイント

不等辺三角形※に植栽を配置

※不等辺三角形に植えると、自然に近い印象となります。

低木・地被類の植付



自然な風合いが出るよう位置を考えながら植付

表面をマルチング



雑草、乾燥を防ぐ等の目的ではまっ子ユーキ※で覆います。

※横浜で育った樹木の剪定枝や刈草等を原料に横浜で作っている堆肥

※今回は木目調に加工した擬木枠を使用することで統一感をもたせています。